

第4次甲賀市行政改革大綱（たたき台）にかかる主な意見

《5月7日 行政改革推進委員会》

《主な質疑や意見》

委員	「これまでの行政改革の取組の評価」と「引き続き取り組むべき課題」との関係性がわかりにくい。引き続き取り組むべき課題にどのように引き継がれたのかわかりやすく示されたい。
事務局	これまでの取り組みの評価と課題との関係性を図式化して示し、行政改革の3つの基本方針に至るまでの経緯を明らかにする。
委員	基本方針において「市民総活躍社会」という見出しが出てくるが、この言葉の定義が示されているか。どこからこの言葉が出てきたのか。
事務局	前安倍内閣において提言された「一億総活躍社会」をもととしている。総合計画において、「地域共生社会の実現」を掲げているが、福祉の意味合いが強い。行革大綱ではそこに環境や防災の自助・公助という視点も含めており、それを用語解説で明確にしていきたい。
委員	働き方改革推進についてはまだ解決できていないと感じる。 公共施設マネジメントは学校再編とも関わってくるが、廃校になった山内小学校や鮎川小学校の利活用のアピールが必要では。保育園も同様。複合施設として整備された様子が市民にはわかりづらいので、「できた」と評価してよいのかわからない。
事務局	働き方改革については、風通しの悪さを感じられる部分があるかもしれない、具体プランの実行についてはこれからとなる。 公共施設マネジメントにおける公有財産の利活用も始まったばかり、今後地域住民にどのように還元されたか、地域の豊かさにどうつながるかを伝えていく必要がある。
委員長	今のところ公共施設については財政効率の観点から触れられているが、柱となる方策1のPPP（公民連携）の中で公共施設が活用されているという点もあるので、単に公共施設を整理するだけでなく、どのように活用するかという視点も踏まえてほしい。
委員	柱となる方策6の事務事業のビルド・アンド・スクラップについて、賛成の立場から意見したい。非常に重要な視点だがインパクトが足りない。従来のやり方を変えなくてはならない部分についての表現に工夫してほしい。

委員	ビルド・アンド・スクラップにインパクトをもたせるには、柱となる方策の5、6の項目を入れ替えるほうが良い。デジタル化が先に来ると、今あるものをすべてデジタル化すると見えてしまうが、まずビルド・アンド・スクラップで業務を見直し、その後人的コストをITに置き換えられるのであれば見直すというのが本来の流れだと思う。
委員	P16第4章「本市の行政経営が目指す姿」について、方針Ⅰ、Ⅱの内容は具体的だがⅢはもっと具体的に書いた方が想像しやすい。例えば、自治振興会や防災組織などの活動の姿を含めた表現が市民にとって身近なものとなるのではないかと。
委員	柱となる方策6の新たな連携の検討で中国の張家界市との友好都市との締結を活かしてほしい。コロナで難しい面もあると思うが、国対国では難しい交流も市同士であれば可能な面もあると思う。トップセールスもされているので、お茶や酒の事業者などので、せっかくの関係を生かしてほしい。
委員	柱となる方策4の移住・定住の促進について、若い世代を呼び込むのであれば「教育」は重要。単に学力を上げるだけでなく、豊かな自然環境を生かしたり、様々な立場・職業の方を外部講師として招いたりして、生きるための知恵を授業で教えてもらいたい。
委員	移住・定住においては交通の便の影響もあると思う。
委員	柱となる方策2の新たな財源確保で、取組項目として忍者や信楽焼を生かした観光や茶などの農業の取組も入れてはいいのではないかと。
事務局	農業、商工、工業の振興は税収増につながる視点があるが、総合計画との差別化を検討している。
委員長	総合計画と同じことを書くのではなく、行革の視点においてその効果を示されるとよい。